様式第２号

視察研修先	独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター	氏名	太田　芳彦
視察研修項目	ホスピタルアートの取り組みについて		

感想・所見など

独立行政法人国立病院機構：四国こどもとおとなの医療センター
＜運営方針＞①高度で安心・安全な医療の提供を行います。②誕生からみとりまで皆様にご納得いただける医療の提供を目指します。③障がい者に対してやさしい医療環境を提供いたします。④良質な医療人の育成を行います。⑤自立した経営を目指します。
＜敷地・施設＞●敷地面積：80,000 ㎡●延べ床面積：53,800 ㎡●地下１階・地上７階●構造：免震構造●駐車場：1,000 台●施設：ヘリポート・レストラン・コンビニ・コーヒーショップ・コインランドリー
＜医療法承認病床数＞●生育部門（411 床）：①総合周産期母子医療センター（７２床）②生育病棟（102 床）③児童精神科病棟（22 床）④重心・神経筋医療センター（215 床）●成人部門（250 床）：①一般病棟（200 床）②循環器病・脳卒中センター（50 床）●中央診療部門（28 床）：①ＩＣＵ、ＣＣＵ，ＳＣＵ（10 床）②ＰＩＣＵ（8 床）救命救急センター（10 床）●手術室（8 室）●診療科目（48 診療科）
◎新しい病院のかたちを求めて
　病気は辛いものです。誰もが避けて通りたいと思っています。でも、ある日突然病気はやってくるのです。「病気になったらいいことなんて一つもない」と思うかもしれません。「思うように歩けない」「好きなものが食べられない」でも本当はそこから学ぶことがたくさんあります。辛い病気を経験してはじめて、これまで何気なく過ごしてきた日常の奇跡に気づきます。歩けるしあわせ。食べられる幸せ。私たちは「与えられない」ことを知って、「与えられていた」ことに気づき感謝し「健康」であるということの本当の意味を問い始めます。だとしたら、病気は健康の一部です。より健康になるための気づきをくれる大切な要素です。私たちは多分、今より良くなるために病気を経験するのです。
　病院で過ごす時間もかけがえの無い人生の１ページ。病気を悲しむだけでなく立ち止まって、深呼吸をして少し視点を変えてみてください。「病気」に隠された小さな扉が見えてきます。私たちは確かな「医療技術」と「まごころ」で「病気」に向き合うあなたの「これから」をサポートします。病気は急ぎ足の日常を立ち止まらせ、その小さな扉から見せてくれるのです。
＜この医療センターでは新しい職種を採用している＞
　ＨＡＤ（ホスピタルアートディレクター）は病院建設時より医療者、建築家、デザイナーなど各種専門家との対話を繰り返し、「新しい病院」をかたちにしていくお手伝いをしています。アートを導入することで各エリアにふさわしい環境づくりを提案したり、スタッフが楽しみながら働けるよう、これまでとは違った角度から業務改善に取り組んでいます。アートをフィールドにして病院に関わる全ての人が医療環境について考える機会をつくり、「共に」開かれた病院が出来るよう心がけています。

　この病院は高価な絵を飾るとかではなく、病院の関係者が壁に絵を書き込んで患者の癒しになるよう努力しているとのことで、ＮＨＫのクローズアップ現代で取り上げており、世界的に反響を呼んでいるとのことで感心して視察をさせていただきました。

様式第２号

視察研修先	香川県高松市議会	氏名	太田　芳彦
視察研修項目	市立病院の再編・ネットワーク化について		

感想・所見など

＜高松市の概要＞
人口が 417,606 人で議員定数が 40 人、常任委員会が 4 つで構成されており、合併を行い大きな市になったようでした。
　高松市立みんなの病院は 3 つの市立病院（高松市民病院・香川診療所・塩江分院）が統合して平成 30 年 9 月に開院した。塩江分院だけは中山間地域に存在するため、高松市立病院の付属医療施設として存続した。
　再編前は●高松市民病院（417 床）●香川診療所（無床）が合わさって新病院（305 床）となり①急性期医療機能の充実②地域包括ケアの後方支援にあたる。●付属医療施設（60 床）①地域まるごと医療の実践にあたる。

◎重点的に取り組む４つの医療：①がん医療②救急医療③地域包括ケア等の「後方支援機能の強化」④災害時や感染症に対する医療に重点的に取り組む。

①がん医療の取り組み
＜その 1＞：ＰＥＴ－ＣＴやリニアックなど最新医療機器を導入し、がん診断・治療の向上を図るとともに、部門間の連携強化により、身体や精神症状の緩和に携わる医師及び看護師等で構成するチームで適切な緩和ケアを提供するため「がん診療推進室」を「がん診療支援センター」に再編した。
＜その２＞通院治療室では、ベッド 2 台とリクライニングチェア 6 台を配置し、外科手術・放射線治療・化学療法等、集学的治療の充実に努める。また、適切な緩和ケアも提供するため、地域包括ケア病棟の中に、緩和ケア病所を４床整備。

②救急医療ＥＲ：救急外来（診察室 3 室・観察ベッド 5 台・感染症診療室 1 室・簡易手術室 1 室）二次救急医療機関として、三次医療施設や救急隊との円滑な連携を図るとともに、救急科を開設し、全診療科の医師、スタッフの連携のもと、最善の医療を提供。

③地域包括ケアの後方支援
＜その１＞急性期病床からの患者の受け入れ・在宅患者等の緊急時の受け入れ・在宅への復帰支援を行い、緩和ケア病床４床を含む４８床があり長期入院 60 日間でとしている。
＜その２＞「地域」と「みんなの病院」を結ぶ窓口を組織化｛地域医療・患者支援センター｝入退院支援、在宅療養支援、転院、医療・福祉相談等を一元化。

④災害時等に対する医療：ドクターヘリを利用した患者搬送訓練等を実施している。現在は、更なる再編とネットワーク強化にあたっている。

　場所的に距離があり患者さんの足への救済はどうなっているのかお尋ねしたところ、電車が病院の前を通っており、駅も目の前にあることから、通院で困ったとのお話は出ていないとのことで、新しくて素晴らしい病院と感心して視察させていただきました。本市もいつか病院再編の話が出てくると思うが、是非参考にさせていただきます。

様式第２号

視察研修先	愛媛県四国中央市議会	氏名	太田　芳彦
視察研修項目	子ども若者発達支援センターについて		

感想・所見など

四国中央市は、愛媛県の東端部に位置し、東は香川県、南東は徳島県、南は四国山地を境に高知県に接する。東西約 30 ㎞、南北約 20 ㎞面積は約 420 ㎢、土地の利用状況は、宅地約１割、林野・農地約８割その他１割となっている。

四国中央市子ども若者発達支援センターは＜構造＞：鉄筋コンクリート造地上３階建＜敷地面積＞3,637 ㎡＜延べ床面積＞2,006 ㎡＜総事業費＞約 10 億円で開所日は 2017 年 4 月。

＜組織と機能＞

①児童発達支援センター機能（療育）
　児童発達支援・保育所等訪問支援・障害時相談支援

②子ども若者総合相談センター（相談）
　子ども若者総合相談（基本相談）・発達検査・ネットワーク会議（子ども若者支援・地域協議会）・個別支援計画・出前講座

③東部・西部子どもホーム（療育）
　放課後等デイサービス・放課後等デイサービス事業所連絡会等

◎子ども若者総合相談：本人や保護者、また園や学校で子供に関わるものからの相談に応え、関係機関との連携のもと適切な支援につなげるために、各種の相談業務を行う。子ども若者育成支援推進法に基づく子ども・若者総合相談センターとして 39 歳までの相談に応じている。

◎検査：子供がどのように物事を捉えているか、得意なこと、苦手なことは何かを調べ、保護者や支援者の共通理解のもと、支援の手立てを考えるために、各種の検査を提供している。検査に当たっては、相談員や検査担当職員が本人の様子を見たうえで、必要な検査とその実施時期を判断する。

◎四国中央市ことばの検査：「年齢相応の発音が獲得されているか」、「独特の発音の癖がないか」、「聴力の問題はないか」、「唇や舌の形・動きは十分か」などについて確認するため、毎年４月に市内全ての保育園・幼稚園の年長児を対象に、”ことばの検査”を実施している。検査結果は園を通じて保護者に通知され、発音の練習が必要と思われ、かつ家族の希望がある場合は、児童発達支援センターの個別療育を利用することができる。

◎障害児相談支援：障害児通所支援（児童発達支援、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス）等を利用するための計画を作成する。（障害児支援利用援助）また、通所支援等の利用開始後、一定期間ごとにモニタリングを行い、サービスの内容が適切かどうか検証する。（継続障害児支援利用援助）

◎基幹相談支援事業：「ワンストップ・ツートップ」方式により、障害時通所支援事業の利用希望者を指定障害児相談支援事業所につないでいる。

◎児童発達支援：障がいや発達に特性のある就学前の子供の基本的な生活習慣の自立を促したり、集団生活への適応力を育てたりする。当事業所では、親子で療育に参加する「小集団療育」と、保護者の送迎により子供だけで療育を受ける「個別療育」を行っている。

◎放課後等デイサービス：障がいや発達に特性のある学齢期の児童を対象に、放課後や夏休みなどの長期休暇中の居場所を提供し、生活能力の向上や、集団生活へ適応力を育てていく等々、我々には考えられない事業展開を実施しており、何を質問すればいいのか戸惑ってしまった。